



北
海
道
札
三
大
英
大
英
下
票
木
票
下

十一月一九



勝本鼎一

大阪市西區南堀江通壹丁目

ちやく 暫らくアキヤケホ
せしよ多々アシテ持つ
うち居はりまする
さうさむお産を出る
仕事も清々麗石
向うあゝ神下々を差
山の子が山へり居る
育つも、とあれどみよ
きアヨリ、因縁と不^可
いふうすれども之を上
ア海を越え、さく
先づ、芳らか所をも

下は空氣上
うるまにあらわす
先づ うちかわす
まへたれの朝も
ありと始むせよ
アリテモトモ すまうき
物足りぬ度むらや
みを、おれの木で
は備えを全うせし
わざの望み極め
とくに妙手而振舞
るは大い丈夫の風也
あこげておひめ

身を以て身を而す振り

る事は大に工夫の餘地

あつてアリルヘアリシ

カモのサツコハ空着ス

ホルンモウガムスノロ

管健室ヨリ威儀行

ルナリソレハ解ニ

ぬ情ヲ歎カハ後半ニ

革うずス後一不取停

好意御申れまほせ

生揮セシヤハ先送

大のよ達キナリ定全

ふる13月をすのう

荒禪せうせんと見送る
久のま遠き山へ乞全
ある113月をすひる
也す。経がはすかくわ
は追かず。やめ多き事
あらば乱れりぬまうぶ
この才にかく重厚今も仰
き木立ちの際、心合の連
びてわざとすとるし
本心引く事無く正道
せても身ヲ失ふる事
うらえ大益をうべん
り。唯下すをもれ村歩
ざるへからず。余故にゆく

うるるる 大益をやく
うの姓にてえもんお手
ひるからず年幼にひき
たまこ一才のときすか
まゆゑおろき おのれ
アレハニのねはを修
一季の神と陪ノ又葉
シホシヒソリミツク
アヤヨシトヨルマリヤ
ムカシアタシヨリモコト
詩詠題五首ノ入り
せう一五六九能歌集
おほきのめよりよき道

うなごのうなぞくは
おとしも本の一覽書
あがめに山海小説
あるとせ長亨抄とまつて
て定腐あく毛文と毛能
火馬厚とさへいわ
れ、耻さらりといたるま
びんよとすに色眼鏡使
へてはやう比類未かた
ひこみか生さまの風情に
うるおうするはれをよ
うとまざむと止どよ
いふとくに本のうけ
ミル父の村の作

廣・道・の・中・に・ま・る・山・と・山・と・

大・山・が・あ・り・て・止・ま・る・

山・と・山・と・山・と・山・と・山・と・

山・と・山・と・山・と・山・と・山・と・

の・山・と・山・と・山・と・山・と・

山・と・山・と・山・と・山・と・山・と・

山・と・山・と・山・と・山・と・山・と・

山・と・山・と・山・と・山・と・山・と・

山・と・山・と・山・と・山・と・山・と・

山・と・山・と・山・と・山・と・山・と・

山・と・山・と・山・と・山・と・山・と・

晴・下